



やすき町 議会だより

第51号
(平成29年11月)



ちくじ

- 9月定例会2
- 臨時会(第6回・第7回)4
- 一般質問(11人が質問)6
- 議案等議決結果16
- やす・ドリーム(夢)リリーストーク18

西条柿の収穫

議会、議会だよりなどに関するご意見、ご要望をお寄せください。

発行／鳥取県八頭町議会 編集／八頭町議会広報常任委員会
Tel.0858-72-3975 Fax.0858-72-2641

事業の成果を チェック!

平成29年9月6日から9月22日まで17日間の会期で9月定例会を開催した。

一般会計及び特別会計の決算認定15議案、条例の一部改正1件・補正予算8議案を含む29議案が提案された。

平成29年度一般会計補正予算（5号）に対して一部修正案を可決した（トピックスNo. 6号に掲載）。

28議案については、原案通り認定、可決した。

一般質問は11人が登壇、行政全般についてたどした。

条例

◆八頭町地域包括支援センターにおける包括的支援事業の実施に係る人員等に関する基準を定める条例の一部改正

地域包括支援センターの主任介護支援専門員などの配置基準を改めた。

財産の貸付

◆旧隼小学校（隼プール、水泳会館、プール駐車場は除く）の貸付

イノベーションバレーの拠点隼L a b. として使用するため使用貸借契約を認めた。

○貸付の相手

株式会社シーセブンハヤブサ

代表取締役 古田 琢也

○貸付価格 無償

○貸付の期間

平成29年10月1日～34年3月31日まで

質疑

隼L a b. の運営に地域の要望や意見は可能か。

答弁 吉田町長

地域の皆さんを優先にという条項も入っている。

質疑

本町にとって税金や雇用が増えるのか。

答弁 吉田町長

税金は現在具体的には数字は出ない。雇用の面ではメリットがあると思う。この事業は地域活性化にもつながる。

質疑

シーセブンハヤブサはどういう会社か。

答弁 吉田町長

新たな産業や人材の育成を目指し、日本の未来のモデルになる田舎をつくる。スローガンなど事業内容を掲げてある通りだ。

訴訟の提起

◇訴訟の提起について

住宅新築資金貸付金滞納者の滞納金回収のため債権者に対して訴えの提起を行い法的措置を図るもの。



反対討論 川西 聡

よほどのことがない限り、町長が町民を訴えることはあつてはならない。人間的な対話を積み重ねて万人が納得するやり方でやるべきだ。

決算

◆平成28年度一般会計歳入歳出決算の認定

○一般会計

- ・歳入総額 116億5739万円
- ・歳出総額 110億1943万円
- ・翌年度へ繰越すべき金額 2379万円
- ・実質収支額 6億1416万円

△主な歳入△

- 町税 13億571万円 (前年より1335万円の増額)
- 地方交付税 55億2970万円 (前年より8228万円の減額)

△主な歳出△

- 人件費 17億7958万円

(前年より9428万円の減額)

○民生費

39億96万円 (前年より7億8655万円の増額)

主な事業の執行状況

- ・工事完了の事業
- 船岡保育所新築事業 6億9264万円
- 八東小学校改修事業 4億2013万円
- ミニSL博物館等整備事業 9849万円

◆平成28年度国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定

- ・歳入総額 23億6738万円
- ・歳出総額 22億1755万円
- ・実質収支額 1億4983万円

決算審査意見

平成28年度一般会計及び14の特別会計の歳入歳出決算書、財産にかかる資料についても誤りは認められず、決算は適正に表示されているものと認

めた。

○若桜鉄道は苦しい経営状況が続いている。存続を願う町民の熱意や地域の活性化のためにも、経営状況を注視しながら旅客実績を増やすなどの努力を続ける必要がある。

○実質収支比率は8・8%と適正範囲の3%〜5%より高く推移している。適正な財政運営が望まれる。

○資金運用状況は適正に管理されている。

○財産管理は今後とも適正な管理に充分留意を望む。

質疑

収入未済金と不納欠損処分は。

答弁

丸山代表監査委員の収入未済額を減らすのが望ましい。過年度の滞納額の回収は難しいが、前年度より回収率は上がっている。

質疑

民有地借上げの賃貸借

契約は適切か。

○答弁 丸山代表監査委員 本町の基準があいまいな部分がある。実態に合った見直しの検討などが必要かと思う。

◆平成28年度一般会計歳入歳出決算の認定に対する討論

賛成討論

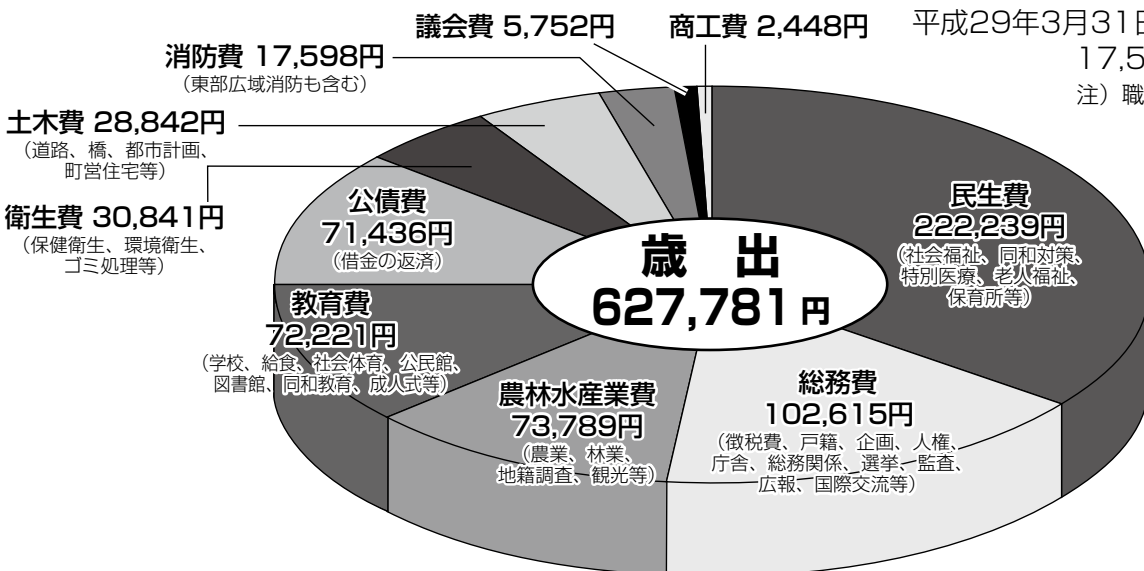
小林 久幸 専門的判断が求められる機会が多い中、技術系専門的知識を有する職員確保のため機構改革が必要だ。町税の徴収率は県内の市町村と比べ低いほうにある。課題の改善に今まで以上努力し、町民サービスの向上を図って欲しいという思いで賛成する。

反対討論

川西 聡 同和対策の特別対策は改善されていると方向は確かに認めるが、やはりそこに欠点がある以上これを認めるわけにはいかない。反対する。

町民一人当たりに使われたお金 (一般会計)

平成29年3月31日現在の人口 17,553人で算出
注) 職員人件費を含む



補正予算

◆平成29年度補正予算(第5号)

歳入歳出の総額にそれぞれ5億3474万円を追加し、105億1221万円とするもの。

〈主な歳入〉

○地方交付税

1億3665万円

○県支出金

2494万円

〈主な歳出〉

○障害者福祉費

2708万円

・自立支援制度事業費
・福祉団体支援事業費
など

○改善センター等管理費

1935万円

・各地区の改善センターの改修整備更新費

○緑の産業活力創生プロジェクト事業補助金

900万円

○土木費

・道路橋梁維持費

800万円

・除雪対策費

279万円

(大雪の除雪破損物品な

どの修繕)

○消防費 100万円

(消防用具など施設整備補助金)

○教育費

・図書館管理費

213万円

(郡家図書館の空調設備の更新)

◆平成29年度補正予算(第6号)

歳入歳出の総額に変更はなく、それぞれ105億1221万円とする。

〈主な歳出〉

○地域福祉センター運営費

287万円

施設の老朽化に伴う施設更新費

○商工振興総務費

20万円

(株)地域商社鳥取の設立出資金。

(予備費307万円で調整)

人事

○人権擁護委員

人権擁護委員の推薦に同意。

浅井 知壽子氏(島)

○財産区管理委員の選任
財産区管理委員の推薦に同意。

〈上私都財産区〉

坂本登氏・中村政美氏
勝原正氏・竹内友實氏
西尾寿秋氏・田中勲氏
川口誠治氏

〈市場、覚王寺財産区〉

河村敏氏・手見野大樹氏
山崎儀章氏・谷口頼昭氏
森本忠司氏・橋本金次郎氏
・山本美智雄氏

〈上津黒、下津黒財産区〉

衣笠春壽氏・田淵宜彰氏
田中省吾氏・衣笠明仁氏
田中利生氏・田中正氏
井上寿光氏

〈別府財産区〉

土井國光氏・平尾厚志氏
平尾登氏・土井英揮氏
野田稔氏・梶川世紀氏
平尾健男氏

〈篠波財産区〉

今井光秋氏・宮崎覚氏
祇園敏章氏・岡晴雄氏
西尾幸一氏・宮崎豊氏
任期は平成29年9月28日
から平成33年9月27日まで。

平成29年
第6回臨時会
7月27日

契約

◆公共下水道長寿命化事業(郡家浄化センター汚泥処理施設更新)機械設備工事請負契約

○契約金額

1億3500万円

○契約の相手

前澤工業株式会社
中国支店 支店長
大橋 達矢

補正予算

◆平成29年度八頭町一般会計補正予算(第4号)

歳入歳出予算の総額に変更はなく、それぞれ99億7747万円とする。

〈歳出〉

○交通安全対策費

30万円

子ども自転車全国大会出場補助金

(予備費30万円で調整)

平成29年
第7回臨時会
8月23日

契約

◆備品購入契約の締結(消防車その1)

○契約金額

2268万円

○契約の相手
株式会社 吉谷機械製作所
取締役社長 吉谷 典雄

◆備品購入契約の締結(消防車その2)

○契約金額

1177万2000円

○契約の相手
株式会社 吉谷機械製作所
取締役社長 吉谷 典雄



▲ 更新される消防車両～今までお疲れ様でした

11人が
一般質問
しました。

ここが聞きたい

一般質問

※質問や町長などの答弁は、質問した議員の原稿に基づき掲載することになっており坂根實豊議員は原稿を未提出であるため掲載していません。

テーマ	質問事項	質問者	頁
農業	農業の振興策	小林	13
	中山間農業問題	坂根	

教育	スクールバスの走行状況システムの導入	奥田	6
	町内小学校での夏休み期間中のプール開放と水泳の指導	森	10
	給付型進学奨励金	川西	11
	本町の小中学校における道徳教育	川西	11
	地方教育を考える	小倉	12
放課後児童クラブと放課後子ども教室	栄田	14	

福祉・医療	地域包括ケアシステムの構築	奥田	6
	第2次食育推進計画	奥田	6
	平成30年度からの国民健康保険（国保）の広域化	川西	11
	健康づくり	栄田	14

テーマ	質問事項	質問者	頁
まちづくり	人権施策の現状と課題	岡嶋	7
	町民から聞こえてくる町行政への思い	岡嶋	7
	「静かなる有事」「人口減少・超高齢社会」への対応を問う	下田	8
	竹を活かしたまちづくり	中村	9
	地域防災	森	10
	若桜鉄道	森	10
	地域の公共交通を考える	小倉	12
	平成28年度決算	栄田	14
	町政全般	高橋	15
	財産区	坂根	

陳情の審査

○採択としたもの

件名	提出者	理由	備考
「全国森林環境税の創設に関する意見書採択」に関する陳情について	全国森林環境税創設促進議員連盟 会長 板垣一徳	陳情の趣旨を認めた	意見書提出

○不採択としたもの

件名	提出者	理由	備考
国民健康保険都道府県単位化に係る意見書採択についての陳情	鳥取県社会保障推進協議会 会長代行 田村真弓	個別の条件設定は難しいものがある	



奥田のぶよ 議員

まちづくり委員会設置の完成は

町長/平成34年になるが短縮したい

地域包括ケアシステム

質問

本町の地域ケアシステムの構築について5点伺う。

- ①まちづくり委員会が立ち上がっていない地域の進捗状況は。
- ②認知症対策の取組み状況は。
- ③認知症地域支援推進員の設置は。
- ④幼児・学童・障がい者、虐待、貧困などの問題との関係は。
- ⑤高齢者の就労支援対策は。

答弁

吉田町長

①関係者と協議して推進している。完成は平成34年になるが短縮していきたい。

②予防健診、予防教室を実施し、認知症初期集中支援チームを立ち上げた。通所型教室の実施や専門スタッフの相談体制を整備。昨年認知症サポーター講座を14回開催し、講演会を年1回開催している。

③保健師2人が研修を受け、地域包括支援セン

ターに配置した。

- ④「我が事・丸ごと地域共生社会の実現」を掲げ連携体制を整備する。
- ⑤シルバー人材センター運営に対し支援している。受注額は増加している。

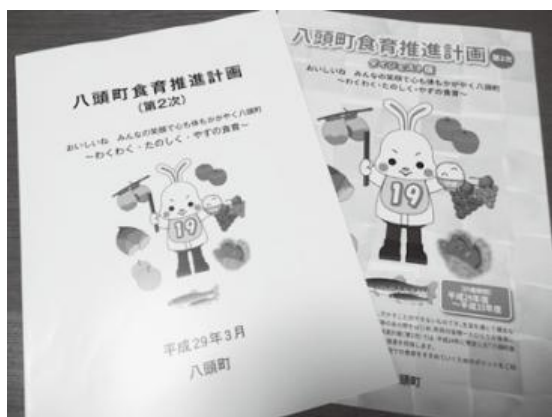
質問

認知症が疑われる場合の相談窓口は。

答弁

吉田町長

保健センターだ。



▲ 第2次食育推進計画

食育計画

食生活改善推進員の活動と

食育推進の関わりは

町長/食育計画の目標達成のためには協力が不可欠だ

質問

本町の食育推進について3点伺う。

- ①一次計画からの5年間の評価と課題は。
- ②保育所内の食育は。
- ③食生活改善推進員の活動がどう関わっているのか、現状と今後の展開を問う。

答弁

吉田町長

①数値が悪化した項目は、毎日朝食を食べる人の割合、複数で食べる人の割合、地産地消を実施している人の割合などがあった。

食育の重要性を認識し行動してもらうための施策を実施していく。

②歯科巡回指導やフッ素化合物洗口を実施。マナー指導、菜園活動、クッキング活動などの取り組み。地産地消の推進や食文化を伝える、ちまきづくりや餅つきをしている。

③平成28年度、町内55集落で691人が参加した伝達講習会の実施や食育に関する啓発活動など町民の健康増進の一翼を担っている。

質問

保健課の行政栄養士配置が正職1人、臨時職員1人だが、正職2人体制は難しいか。

協力が不可欠だ。

答弁

吉田町長

正職が望ましいのは承知しているが、他とのバランスもあり非常勤の特別職としている。

（その他の質問）
スクールバスの走行状況システム導入

計画の目標達成のためには食生活改善推進員の



岡嶋 正広 議員

人権施策

現状と課題は

町長/人権意識を高め行動と実践につなげたい

質問

平成28年12月、「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行された。このことを踏まえ質問する。

- ①部落差別の実情は。
- ②新たな条例制定は。
- ③実情に応じた施策を今後どう進めるのか。
- ④相談に対応する体制の充実を今後どう図るか。
- ⑤差別解消のための教育・啓発を今後どう進めるか。
- ⑥実態調査の計画は。

答弁

吉田町長

①近年県に報告したものは、意識調査では、近年5年間で差別を受けたり感じたことがあると答えた人が26・8%ある。

②合併時に制定した条例の目的に沿って必要な施策を推進する。

③本年3月に「人権を尊重するまちづくり実施計画」を策定した。これを基に人権意識を高め行動と実践につなげたい。

④人権擁護機関などの相談体制に加え、町内の体

制の中で相談に応じた。

- ⑤「人権を尊重するまちづくり実施計画」を推進し、教育・啓発の必要性を理解してもらい行動への実践を推進したい。
- ⑥現在調査のための施行令とか通達などが出ていないため詳細は判断しかねる。

質問

教育ビジョンに「差別に負けない力と実践力の育成」とうたわれている。次の2点質問する。

- ①差別に負けない力とは。
- ②現在の学校教育で実践力の育成が可能なのか。

答弁

菟田教育長

①差別を許さず、間違った考えをそのままにしないことであり、我慢とか耐えることではない。

②社会科の歴史学習で部落差別の起こりや差別解消に向けた水平社運動を取り扱っている。今後道徳など使用する資料作成を検討している。

町政の執行

町民のために汗をかく姿勢が足りないのでは
町長/町民に寄り添った町政になるよう頑張る

質問

町長をトップとする役場全体の町民に対するお役所的な対応は、町民のために汗をかく気概が薄れているように感じるが。

答弁

吉田町長

施策を推進する中で機械的ではなく町民の皆様と意思疎通を図り理解してもらいながら進めるよう心掛けています。

質問

審議会のまとめで終わりではない。区長に頼んで終わりではない。議会で予算が通ったからそれでいいではない。町民への理解を求める姿勢、机の上の仕事ではなく町民に寄り添い、現場を知り汗をかく姿勢が必要ではなからうか。

答弁

吉田町長

町民あつての役場だ。丁寧な説明と町民に寄り添った町政になるよう頑張りたい。



▲ 人権問題講座の開催の様子



下田 敏夫 議員

人口減少、超高齢社会への対応は

町長/ささえ合いの体制を構築することが必要だ

静かなる有事

質問

今、日本では「静かなる有事」と言われる「人口減少、少子超高齢社会」が到来し静かに、しかし確実にひたひたと身近に迫ってきている。

これらについて国、県、市町がどう対応していくのが問われている。出生数の減少も人口減少、高齢社会も避けられないならそれを前提としたまちづくり、社会づくりが求められ、つくり替えていくしかない。

人口減少、超高齢社会の本質的課題である、
①「出生数の減少」
②「高齢者数の増加」
③「勤労世代の減少」
についてどう取り組むのか伺う。

答弁

吉田町長

全国的に少子高齢化が進み、人口が減少する中、本町においても平成27年の国勢調査で人口が16,985人となり総合戦略策定時の想定を上回るスピードで人口減少が進んでいる。

このため、人口減少を前提としたまちづくりを行っていく必要がある。人口減少は、生産年齢人口の減少による産業活動の低迷、地域活力の低下と様々な課題の根本的な要因となる。人口減少を前提としつつ、いかにその流れを抑えていくかという両面の取り組みが重要である。

①「出生数の減少」
結婚、出産の希望がかなえられない子育て環境の整備が重要。保育料の無料化の拡充、放課後児童クラブの延長、病児保育の実施などを行ってきた。引き続き子育て世代のニーズを聞き、充実に努める。

②「高齢者数の増加」
単に介護需要の増加への対応にとどまらず地域での見守りなど高齢者の暮らしを地域住民全体で支え、住み慣れた地域で生活できるように、支えあいの体制を構築することが必要だ。

現在、作業中の地域福祉計画の中でもしっかりと

と検討する。

③「勤労世代の減少」

子育て環境の整備に加え、働く場の確保や移住・定住対策の促進に取り組みが必要がある。農林業、商工業の振興、準lab.や起業支援のように若い世代に訴える取り組み、住宅リフォーム助成などによる移住・定住への支援などに引き続き取り組んでいく。



▲ 親子ふれあい（ぷらっとぴあず）

人口が減少し、高齢者が増えるという現実を見据えた取り組みを行いながら、子育て、教育環境の整備、働く場の確保、移住・定住対策による人口減少の抑制を図る取り組みを行うなど総合的に取り組んでいる。



中村 美鈴 議員

竹を活かした
まちづくり

竹炭生産者組合の後継者不足は

町長/雇用や販路に携わっていく

質問

本町の林野面積は鳥取市に比べて2倍あるとデータが出ている。本町船岡地域で竹林の活用を図るべきと考えているか。

竹は資源であると思うので、ぜひ、竹の活用を産業に結びつけられないかを問う。

①竹林公園整備の目的と事業の内容、経過、及び成果と課題は。

②竹林公園のイベント状況は、年間どのようなイベントがあり、参加者は何人か。

③竹炭の事業は、竹炭生産組合の4代目の人が引き継いでいるが、現状と課題は。

答弁 吉田町長

①竹林公園は、平成5年に竹林を活かした町づくり構想を策定し、翌年整備をして、7年7月1日に開園をした。

公園は、竹林浴の里をキヤッチフレーズに、国内外の珍しい竹と笹、200品種ほどが生い

茂る、竹林浴が満喫できる施設だ。園内の入場は無料で、バンガローなどの施設部分の利用は有料だ。

12年4月に食料供給施設をオープンし、同年8月に野外ステージを開設した。

鳥取市の中村仙一郎氏（若桜線SL遺産保存会顧問）が、制作されたミニSL機関車など15両の寄贈を受けて、28年ミニ

SL博物館の建設に着手し、本年4月1日に開館した。

7年開園当初と、周辺環境も変わり、鳥取自動車道や、河原インター線の開通で、竹林公園のアクセスが良くなった。また、準ライダーの聖地として、県内外から多くのライダーが来るようになった。その結果、準駅まつりをスズキ自動車株のご支援もあり、竹林公

園で開催することで効果として知名度の向上や来園者数も増大した。

本年4月に、やずミニSL博物館を園内に設置し、多くの皆さんが楽しんでもらうためには、課題もあるが、竹林公園の意義を保ちつつ取り組む。

②竹林祭りの参加者は1500人。またクラフトキャンプの開催は、本年は無かったが、昨年は町内外で5000人、準駅まつりの参加者は、約2300人、バイクは1600台、ミニSL乗車体験は6940人だ。

③8年12月、船岡町竹炭生産者組合を組合員8人で設立した。13年12月、町と普通財産使用貸借契約書を締結した。組合の結成から20年が経過し、正組合員2人、准組合員3人で仕事をされ、28年度は、竹炭1200キログラム、竹酢液1716リットルの生産量の減少で、後継者の育成が急務な状況にある。



▲ 竹林浴の里～心身ともにミニSLで楽しもう～

質問

今4代目の方が、80歳で、後継者を探しているが、例えば地域おこし協力隊に入ってもらい、対策はできないか。

答弁 吉田町長

後継者は大きな課題であり、声をかけていきたい。

質問

町内に竹酢のリピーターがいて、健康にも良いと聞いている。本町のイベントで特産品のPRをし、雇用や販路の開拓を考え、本町も取り組み強化に努めてほしい。

答弁 吉田町長

後継者が一番だろう。本町としても雇用や販路に携わって参りたい。

地域防災

防災訓練のあり方を変えては

町長/今後視野に入れて検討



森 亜紀子 議員

質問

本町では8月に各地域で防災訓練が実施されている。防災対策など町長に伺う。

①本町一斉防災訓練の課題は。

②実際に避難所を設営するなど今後の訓練の計画は。

③防災マップ改訂の中で住民の声はどう反映されるのか。

答弁

吉田町長

①世帯全員が避難訓練に参加することが難しい。
②集落や地域で、県防災アドバイザーによる出前講座の活用や防災意識の高揚、技術の向上を図りたい。
③集落の代表者と協議をしながら適切な避難場所を選定し、平成30年度改訂版マップに記載する予定だ。

質問

今後、曜日や時間帯を変えての訓練の計画は。

質問

本町としては当面現状通りの訓練を続ける。夜間訓練など集落への提案は検討する。

質問

体育館などを利用して宿泊型の避難所設営体験を実施しては。

答弁

吉田町長

夜間訓練から宿泊訓練につなげることは可能だ。地震の訓練だけでなく豪雨の訓練も視野に入れて考える必要がある。

質問

「東部広域公共交通網計画」で若桜鉄道が担う役割は大きい。来年3月4日には「昭和」の車両が導入され観光分野での期待が高まる。若桜鉄道について伺う。

質問

①現在の社長は小林若桜町長が兼務だがどうか。
②「昭和」の車両導入にあたっての観光プランは。
③日常の運行の中で「昭和」の位置付けは。

答弁

吉田町長

①なるべく早いうちに後任者を決定できるように努力する。
②現在旅行代理店などと協議し、ツアー造成の準備を進めている。また数社の旅行会社から問い合わせもある。

答弁

吉田町長

①なるべく早いうちに後任者を決定できるように努力する。
②現在旅行代理店などと協議し、ツアー造成の準備を進めている。また数社の旅行会社から問い合わせもある。

質問

観光客のリピーターを増やすためにも社員の接遇は大切と考えるが。

質問

③日曜日臨時便の貸切列車として運行以外は、通常の客車として使う。住民のみなさんに、利用してもらおう。

答弁

吉田町長

若桜鉄道は安心安全であることが大事だ。社員の接遇研修は実施している。

質問

吉田町長

3年間同じ車両が入るのか。
一部デザインが違う。個性を生かした仕上がりになる。

若桜鉄道

「昭和」の観光プランは

町長/ツアー造成など

準備を進めている



▲ 観光化が期待される「若桜鉄道」

〈その他の質問〉

町内小学校での夏休み期間中のプール開放と水泳の指導



川西 聡 議員

国民健康保険

広域化で不安や心配の声があるが

町長/本町の諸制度の現状維持を図りたい

質問

2015（平成27）年5月の「持続可能な医療制度を構築するための国民健康保険制度の一部を改正する法律」の公布に伴い、来年度から都道府県と市町村が共同で国保の運営を担い、都道府県が財政の責任主体となる。これが国保の広域化だが、保険者からは不安や心配の声がある。

①保険料が全県統一化され高くなるのでは。

②従来、本町の行っていた一般会計からの繰り入れはどのようなものか。

③「国保税の申請」や窓口一部負担金の減免はどのようになるのか。

④県に対する「納付金」は特別医療費に係る国庫負担金の減額調整措置分について、減額分を加算する方針だ。初見を問う。

⑤短期証明書や資格証明書など、発行の事務処理は統一されるのか。後者の本町での無発行は継続を図るべきと考えるが。

答弁

吉田町長

①保険税率の統一化は、現状では各市町村の医療給付費や所得の水準の差が大きく困難であり、税率の決定は各市町村の賦課割合を用いることが確認されている。

②これまでと同様である。

③現状ではこれまで通りだが、連携会議で決める。

④厚生労働省は、来年度より未就学児までの医療費助成につき減額対象にしない方針だ。障がい者やひとり親家庭、さらに高校生までの全てが対象になるべきである。早急な廃止に向け要望活動を県と共に強めていく。

⑤現在、連携会議で協議中だが、本町の現状維持を図られるよう主張する。

質問

①道徳は通常の教科学習とは違い、客観的な点数評価にならない。6月定例会で、教育長は「八頭町小中学校道徳資料集を平成29年度で作成し、30年度から使う予定」の旨を答弁しているが、子どもの成長を図る観点や理念でどのような資料を作成するのか。

②戦前の「教育勅語」はどの部分であれ戦争推進のための内容であった。それを教材として、部分的であれ肯定して取り上げるのは適切か。

答弁

菟田教育長

①本町の児童生徒が、名誉町民や歴史的に有名な本町出身の関係者、古井喜實氏（郡家）・橋本興家氏（船岡）・本田實氏

道徳教育

「教育勅語」を教材に取り上げるのは適切か
 教育長/積極的に取り上げる必要はない

（八東）の生き方とか知恵を学ぶことにより、本町を思う気持ちを育むことを目指す資料であり現在鋭意作成中である。

②教育勅語は国会で排除

され失効確認がされており、積極的に取り上げて教える必要はない。しかし、内容について「父母に孝行を尽くし」「朋友信義を持つて交わり」などは教育基本法に通じるものもあり、全てが否定されるものでもない。

（その他の質問）
 給付型進学奨学金



▲ 授業風景「道徳」（3年）～八頭中学校～



小倉 一博 議員

公共交通

今後の在り方は

町長/免許がなくても生活できる町を目指す

質問

公共交通の在り方について伺う。

①若桜鉄道の列車を改修して観光列車として運行する予定だが、集客計画は。

②バス・鉄道とも、沿線にひと工夫が必要と思うが。

③これからの公共交通についてどう考えているか。

答弁 吉田町長

①観光列車「昭和」の運行は、毎日曜日に臨時列車として運行予定であり、1日50人として、年間6000人、300万円の収入を予定している。またツアー会社による貸し切り運行を考えている。

「昭和」の通常運行については、1日に50人、年間5000人、運賃収入200万円余を見込んでいる。

関連グッズ等も含め、600万円の増収となる。

②鉄道沿線での、観光客

のもてなしを協議検討している。バス路線の運行システムの再編や鉄道とバスの連携など、「鳥取県東部地域公共交通再編実施計画」を作成する予定だ。

③沿線人口の減で経営が厳しい。鉄道は観光列車運行で旅客収入増に努める。

バスは1000円にして利用客が2600人増えた。

タクシー助成は、今年から個人負担を最低3000円から最高800



▲ ブルートレインがある隼駅

質問

円に設定したので遠距離の利用が増えた。本町の支援が1000万円を超えたので、在り方も含め検討する。免許証がなくても日常生活ができる町を目指す。

質問

デザインテーマの「昭和」に結びつくような、取り組みや観光地は想定しているのか。待機用の線路を設置するのか。

答弁 吉田町長

若桜鉄道の23の施設が国の登録有形文化財に指定された。

また行き違いができるように、八束駅に計画し、増便が可能となる。

地方教育

将来果たすべき

役割は

教育長/人づくりで持続可能な地域の実現だ

質問

地域を担うべき子どもが加速度的に減少している。地方教育のあり方について伺う。

①少子・人口減社会の教育課題は。

②未来社会における教育の果たすべき役割は。

③歴史・文化の伝承についての、取り組みは。

答弁 菟田教育長

①規模の維持、地域人材の不足などが課題だ。

児童生徒の人間関係形成力の育成、教職員組織の活性化が必要だ。

②地域の文化や風習を次の世代に伝える人づくりが持続可能な地域を実現する。

③本町にゆかりの人物を教材化して道徳の郷土教材集を作成中で、先人の

生き方や知恵を学ぶことで本町を思う気持ちを育む。

質問

学校が統合され、少子化もあり、放課後の仲間づくりや地域との関わり方に課題があるが。

答弁 菟田教育長

社会教育で取り組む。



小林 久幸 議員

農業振興

6次産業化の取り組みは

町長/一緒にになって考えたい

質問

本町では、平成27年3月に第2次総合計画を策定。「人が輝き未来が輝くまち八頭町」を目指して、農林水産業の活性化、農林業の担い手の育成などを推進している。さらに9月には本町の総合戦略を策定し、地場産業の競争力の強化する取り組みをしている。

「八頭町農業ビジョン」は、国・県などの補助金を活用した、11項目の農業振興策として取り組みを現在行なっている。

農業を職業として選択できるような魅力ある農業、さらには儲かる農業となるよう水田営農、果樹の振興に取り組む方向性が出され、八頭農業振興協議会で協議されている。

そこで、本町の6次産業化の施策はどのような事業を考えているのか、本町の基幹産業である農業を見直し、農家の収入をどう増やしていくかの視点で何う。

質問

農産物を活用した6次産業化は必要不可欠だと考えている。農業者などの農業所得の向上と農業経営の安定化を図って行くことは、後継者を作る課題の解決策の一つでもある。

質問

事業の取り組み、企画案づくり、資金の調達、販売戦略などの相談窓口は、農業振興協議会か、産業観光課か。

質問

新たな企画の相談や、補助金のこともあり、いろいろ調査する必要があるので産業観光課を窓口にしていきたい。

質問

本町には、どのような6次産業化の事業が必要か。

質問

農産物を生産するだけではだめだ。それを使って加工、6次産業化につ

なげることだ。

質問

農家は、6次産業に使う農産物は作れても、企画、事業計画の策定、資金の調達、販売など、全ての物を農家自らがつくり上げ、本町はもとより県・国に上げることが大変難しいとの見方をしている。

本町は最大のシンクタンクだと思うので、農家のために、ぜひ事業の提案をしてほしいが。

質問

相談、企画ということだが、そういう面では一緒に考えてほしい。本町も努力するし、生産者であれ企画の皆さんも一緒に頑張って汗をかいて提案してもらいたい。また本町も提案する。



▲ 6次産業化の冷凍施設 鳥取県産業技術センター



栄田 秀之 議員

決算

財政的に豊かと言えるか

町長/認識していない

質問

不況を反映して、税収低下による今般の地方財政危機が長期にわたっている。その一方で、人口の高齢化による民生費の増加及び施設の老朽化などによる歳出圧力は高まってきている。

歳入の先行きが不透明な中、歳出の増大を見れば自治体の財政状態が今後さらに困難になっていくことが予想される。

① 決算における合併算定替えの影響は。

② 平成28年度のインフラ資産の耐用年数を超えて更新した件数と金額は。

③ 老年人口の増加は民生費の増加、生産年齢の人口減少は税収の低下につながる。決算における民生費と税収の影響は。

④ 経常収支比率と財政力指数の前年との対比は。

⑤ 自主財源比率の前年度との対比は。

⑥ 町税の徴収率及び滞納回収の前年度との対比は。

⑦ 28年度末の定員管理適正化進捗状況は。

⑧ 28年度末の財政効果額達成目標値と進捗状況は。

以上、決算について伺う。

答弁

吉田町長

① 前年対比約8200万円の減少だ。

② 上下水道関係で36件約1億1168万円だ。

③ 500万円で0.9%増加した。今後も介護予防に一層努力する。

④ 経常収支比率は85.3%で2.8ポイント上回り、財政力指数は0.235で0.001ポイント増加した。

⑤ 19.5%となり1.0ポイント減少した。

⑥ 徴収率は92.58%で0.74ポイント上昇し滞納分は19.3%で2.09ポイント上昇した。

⑦ 目標値231人に対し224人で目標を達成した。

⑧ 合計8378万円程度と見込んでいる。

質問

28年度決算における本

町の財政状況は、財政的に豊かな町と言えるか。

答弁

吉田町長

認識していない。

質問

徴収率が上昇したが、県内町村では下位にある、徴収率向上についてはどうか。

答弁

吉田町長

向上は必要だ。職員一人丸となって取り組む。



▲ 狭くなったひまわり児童クラブ

後課放
児童クラブ

推進対応は
町長/放課後児童クラブを
支援している

質問

平成19年度より放課後子どもプラン推進事業が実施された。原則として全ての小学校区において文部科学省の放課後子ども教室、厚生労働省の放課後児童クラブを一体的、連携して実施することある。本町の対応について伺う。

答弁

吉田町長

本町は各小学校単位、4か所で放課後児童クラブの運営を支援している。

答弁

藪田教育長

現在余裕教室はない、したがって放課後子ども教室推進事業は困難。

〈その他の質問〉

健康づくり



高橋信一郎 議員

不登校

昨年度の八頭中学校の 不登校の生徒は22人いるが

教育長/校長はゼロを目指している

質問

去年1年間の不登校の生徒が22人あったと聞いているが、この数をどのように捉えているか。一般的に一つの学校では多いと思うが、原因と対応は。

答弁

荻田教育長
学年別には1年生8人、2年生8人、3年生6人となっている。担任が電話で声かけをしているが、家庭の状況などで来られない生徒がいる。今年度からスクールソーシャルワーカーを配置し、連携して防ぐ対応が出来つつあるので期待している。

質問

一番生徒に接する先生自身が良く理解していない。逆に生徒の嫌な思いを助長・増幅させてはいないか。スポーツ偏重にも係っており、子どもの変調を見逃す学校の体質があるのではないか。

答弁

荻田教育長
ハイパーQ.Uというアンケートで子どもの意識が見えるようになってきている。数字的に危ないと思える生徒には、普段から目をかけていく対策をとっている。

質問

先生が生徒と同じ目線で溶け込もうとしている姿勢は感じるが、個性と個性のぶつかり合いだと

考

考えている先生がいる。これは先生のおごりで強者の論理だ。子弟関係に友達関係を打ち込むのは無理だと思うが。

答弁

荻田教育長
学校は生徒指導という一面を持っている。そういう中で言わなければならぬ場面というものもある。そのような日々の営みを理解してもらいたい。



▲ 町立八頭中学校

若桜鉄道

増便は過度な 期待ではないか 町長/臨機応変な 対応を考える

質問

これから先、沿線人口は減る一方だ。乗客目標数は年間32万5000人。換算すると、毎日朝から晩まで全車両に30人

答弁

吉田町長
の計算になる。過度な期待ではないか。毎週日曜に計画しているツアーも、1年間通しては現実的でないと思うが。

答弁

吉田町長
1日30人はあくまで希望で、利便性の向上の観点から計画を立てた。季節、季節でツアー計画の旅行会社も変わる。臨機応変な対応をしても良くなるかと考えている。

よく分かる

議案等議決結果 (第6回、第7回臨時会・第8回定例会)

○全会一致で可決・認定・同意・採択したもの

議案番号	件名	議案番号	件名
第6回臨時会			
90	公共下水道長寿命化事業（郡家浄化センター汚泥処理施設更新）機械設備工事請負契約の締結について	91	平成29年度八頭町一般会計補正予算（第4号）
第7回臨時会			
92	備品購入契約の締結について（消防車その1）	93	備品購入契約の締結について（消防車その2）
第8回定例会			
94	人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて（浅井 知壽子氏）	110	平成28年度八頭町住宅資金特別会計歳入歳出決算の認定について
95	八頭町財産区管理委員の選任について（34人）	111	平成28年度八頭町公共下水道特別会計歳入歳出決算の認定について
98	八頭町地域包括支援センターにおける包括的支援事業の実施に係る人員等に関する基準を定める条例の一部改正について	112	平成28年度八頭町農業集落排水特別会計歳入歳出決算の認定について
99	平成29年度八頭町一般会計補正予算（第5号）※修正議決した部分を除く部分	114	平成28年度八頭町宅地造成特別会計歳入歳出決算の認定について
100	平成29年度八頭町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	115	平成28年度八頭町墓地事業特別会計歳入歳出決算の認定について
101	平成29年度八頭町簡易水道特別会計補正予算（第1号）	116	平成28年度八頭町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定について
102	平成29年度八頭町住宅資金特別会計補正予算（第1号）	117	平成28年度八頭町上私都財産区特別会計歳入歳出決算の認定について
103	平成29年度八頭町公共下水道特別会計補正予算（第1号）	118	平成28年度八頭町市場、覚王寺財産区特別会計歳入歳出決算の認定について
104	平成29年度八頭町農業集落排水特別会計補正予算（第1号）	119	平成28年度八頭町上津黒、下津黒財産区特別会計歳入歳出決算の認定について
105	平成29年度八頭町介護保険特別会計補正予算（第1号）	120	平成28年度八頭町篠波財産区特別会計歳入歳出決算の認定について
106	平成29年度八頭町大江財産区特別会計補正予算（第1号）	121	平成28年度八頭町大江財産区特別会計歳入歳出決算の認定について
109	平成28年度八頭町簡易水道特別会計歳入歳出決算の認定について	122	平成29年度八頭町一般会計補正予算（第6号）

○賛否の分かれたもの

議案等 番号	議席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	結 果
	件名	奥 田 の ぶ よ	川 西 聡	小 倉 一 博	小 林 久 幸	森 亜 紀 子	中 村 美 鈴	岡 嶋 正 広	坂 根 實 豊	小 原 徹 也	栄 田 秀 之	高 橋 信 一 郎	下 田 敏 夫	尾 島 勲	
第8回定例会															
96	訴訟の提起について	○	×	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	可決
97	財産の貸付について（旧隼小学校）	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
修正案	議案第99号平成29年度八頭町一般会計補正予算（第5号）に対する予算・決算に関する調査特別委員会修正案	×	○	×	×	○	○	○	○	×	○	○	×	×	可決
107	平成28年度八頭町一般会計歳入歳出決算の認定について	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
108	平成28年度八頭町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
113	平成28年度八頭町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定について	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	認定
陳情7	「全国森林環境税の創設に関する意見書採択」に関する陳情について	○	×	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	採択
陳情8	国民健康保険都道府県単位化に係る意見書採択についての陳情	×	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	不採択
発議9	「全国森林環境税」の創設に関する意見書の提出について	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	可決

賛成「○」、反対「×」で記載。

議案の採決は、谷本正敏議長を除く13人で行う。

新 企 画

やず・ドリーム(夢) リレートーク



▲ (左) 緒方さん (右) 嶋田さん
地域に溶け込む若者二人

地域おこし協力隊として
二人は鳥取環境大学の同期。県外で就職したが、平成25年度に緒方さんが、27年度より嶋田さんが八頭町地域おこし協力隊として帰鳥。八東地域を拠点に、勘右衛門土手ニラの振興や、養蜂、有害鳥獣駆除活動等に勤む。28年3月の緒方さんの任期終了を機に起業。道の駅はつとう内に喫茶ドントーレをオープンさせた。

合同会社勘右衛門プロジェクト
代表 緒方陽紀さん(八頭町地域おこし協力隊OB)
同代表 嶋田喜朗さん(八頭町地域おこし協力隊)

※道の駅はつとう・喫茶ドントーレ

僕たちが思う地域の良さを、きちんとした形で町内外の人たちに発信したいと思ったことをきっかけに出店しました。ただ、開店して1年余り。僕たちの活動を応援して下さる方々が力を貸してくださり、もったいないほどの店構えになりました。地域活性化の一助になればと始めたお店ですが、結果的に恩返しのおツケが溜まる一方になりました。

※「はつとう」を広めたい

特産の果物を旬の時期以外でも楽しんでもらいたいと、地域の方々と一緒にジャムづくりも始めました。恩返しの意味も込めて、広く「はつとう」を認知していただけるよう、活動を続けていきたいと思っています。

定例会本会議を
ケーブルテレビで
中継しています

議会の傍聴を
してみませんか

一般質問は
再放送しています

TEL 0858-72-3975
FAX 0858-72-2641
(議会事務局)

八頭町議会 検索

月 日 曜	開議時刻	日 程	月 日 曜	開議時刻	日 程
12月6日	水	8:40 ○ 全員協議会 9:30 ○ 本 会 議 1 開 会 2 会議録署名議員の指名 3 会期の決定 4 諸般の報告、請願・陳情の委員会付託 5 町長あいさつ 6 議案上程 7 同上に対する町長の提案理由の説明 散会后 ○ 全員協議会(議案説明)	12月12日	火	9:30 ○ 本 会 議 1 町政に対する一般質問 散会后 ○ 予算・決算特別委員会
12月7日	木	9:30 ○ 本 会 議 1 議案に対する質疑等 2 議案の委員会付託	12月13日	水	9:00 ○ 常任委員会
12月8日	金	9:30 ○ 本 会 議 1 町政に対する一般質問	12月14日	木	9:00 ○ 常任委員会 13:00 ○ 議員全員協議会
12月9日	土	休日	12月15日	金	9:00 ○ 全員協議会
12月10日	日	休日	12月16日	土	休日
12月11日	月	9:30 ○ 本 会 議 1 町政に対する一般質問	12月17日	日	休日
			12月18日	月	休会 事務整理日
			12月19日	火	9:30 ○ 本 会 議 1 委員長付託議案審査報告 2 議案の可否決定 3 常任委員長付託請願・陳情審査報告 4 請願・陳情の採否決定 5 閉 会

12月定例会(予定)(会期14日間)

※変更になる
場合があります

☐ …ケーブルテレビで本会議の中継を予定しています。

編集後記

本定例会では、ホッケー場整備事業の賛否を巡る激論があり、トピックスNo.6への掲載は議会広報常任委員会で異論がなく既報となりました。掲載した各議員の討論内容には様々な反響がありました。住民への情報提供は内容の賛否を問わず大変重要であると再認識した次第です。

また、本定例会では6月定例会と同様に11人の議員が大所高所から一般質問を展開、大要の記載に編集努力をしました。

「住民の代弁者として議論する」議会のトピックスや本号記載の議案に対する討論、一般質問などの内容を伝える議会広報常任委員会は面目躍如と言えます。

(記：川西 聡)

編集委員

- 委員長 奥田のぶよ
- 副委員長 小原 徹也
- 委員 川西 聡
- 委員 小林 久幸
- 委員 森 亜紀子
- 委員 中村 美鈴
- 委員 尾島 勲



再生紙と環境にやさしい大豆油インキを使用し印刷しています

